



上村松園「つれづれ」



山口華揚「虎児」昭和32（1957）年

多くの画家は、師弟であったり仲間や親子といった、さまざまな繋がりの中からいろいろな影響を受け、画風を確立させていきます。このたびは日展の日本画家という括りで紹介していきます。

日展は、明治40（1907）年、フランスのサロンに倣って文部省が主催となって開いた展覧会（文展）が始まりで、以後「帝展」「新文展」「日展」と名称をかえて今日まで続く総合美術展です。第1章・第1室では、文展の審査員でもあった竹内栖鳳を中心に、栖鳳の画塾・竹杖会（ちくじょうかい）で学んだ橋本閑雪、上村松園らの作品とともに、栖鳳が顧問を務めた国画（こくが）創作協会の画家たちを展示し、第2室では栖鳳の孫弟子にあたる山口華揚が代表を務めた晨鳥社（しんちようしゃ）の画家たちなど、京都画壇で学んだ画家同士の繋がりを紹介します。

第2章では、民営化した日展をけん引した東山魁夷、杉山寧、高山辰雄の3人が東京画壇の中心となった様子を紹介합니다。親子、孫、家族といった繋がりをもつ東山魁夷と川崎家一門との関係や、魁夷の弟子たちの作品のほか、杉山寧、高山辰雄と日展の気鋭作家らが結成した一采社（いっさいしゃ）と、一采社のメンバーと交流のあった画家など幅広く紹介します。

さまざまな繋がりの中で切磋琢磨しあった画家たちへの作品をぜひお楽しみください。

■ 次回展覧会のお知らせ

「美の競演 美人画と花鳥画の世界」

4/23（水）～7/3（木）【前期】4/23（水）～5/26（月）
【後期】5/28（水）～7/3（木）

■ 近隣の文化施設のご案内

蘭島閣美術館 別館

2/22（土）～4/3（木）『没後50年 林武造形奇譚・前期』

三之瀬御本陣芸術文化館

2/26（水）～4/14（月）『絵！旅きぶん』

松濤園 開催中～4/7（月）

◇朝鮮通信使資料館『朝鮮通信使とおもてなし』

◇陶磁器館『わぎの継承—陶芸の人間国宝たち—』

■ 交通のご案内

広島市内から車で約1時間

呉市内から国道185号線を竹原方面へ。安芸灘大橋（有料）を渡った最初の島が下蒲刈島です。下蒲刈市民センター前の無料駐車場をご利用ください。駐車場から美術館まで260m。

指定施設にて1,000円以上ご利用の方に安芸灘大橋の帰りの通行券を進呈。
詳しくは 呉市観光案内所 TEL 0823-23-7845 まで。

呉市内から電車・バス利用の場合

JR 呉線で広駅または仁方駅で下車し、駅前最寄りのバス停留所から瀬戸内産交のバス「宮農センター・沖友天満宮方面」行きに乗車。下蒲刈町内「三之瀬」停留所で下車。停留所から美術館まで300m。

